

平成17年3月期 決算概要

(第48期)

1. 決算取締役会開催日 平成17年5月26日

2. 定時株主総会開催日 平成17年6月21日

決算期 年1回3月31日

連結決算の有無 無

中間配当制度 無

会社名	江間忠合板株式会社
本社所在地	東京都中央区晴海3-3-3 http://www.emachu.co.jp http://www.empty.co.jp
責任者役職名	江間忠木材(株) 専務取締役
氏名	室 秀明
TEL	(03)3533-8231

3. 当期の業績 (平成16年4月1日～平成17年3月31日)

(1) 経営成績 (注)記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

	営業収益	対前期 増減率	営業利益	対前期 増減率	経常利益	対前期 増減率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
今期	7,228	(4.1)	195	(12.6)	203	(13.2)
前期	6,946	(3.4)	223	(9.7)	234	(7.5)

	当期純利益	対前期 増減率	1株当り 当期純利益	株主資本 当期純利益率
	百万円	%	円 銭	%
今期	115	(174.7)	1,469.64	
前期	154	(33.0)	1,975.86	8.59

(注) 株主資本当期純利益率は、資本の部合計の期首と期末の単純平均で除して算出しております。

(2) 配当状況

	1株当り 年間配当金	配当金総額	配当性向	株主資本 配当率
	円	百万円	%	%
今期	150	11.7		0.7
前期	150	11.7	7.6	0.6

(3) 財政状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当り株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
今期	5,476	1,728	31.6	22,158.28
前期	5,224	1,864	35.7	23,893.23

(注) 期末発行済株式数 当期 78,000株
前期 78,000株
(1単元の株式数 100株)

4．商品別売上高

分類	主たる取扱商品	売上 (百万円)			構成比 (%)	
		今期	前期	前期比 (%)	今期	前期
木材	2×4工法用木材、集成材等	2,605	2,648	1.6	36.9	39.0
合板	針葉樹合板、特殊合板等	1,518	1,376	10.3	21.5	20.3
繊維板	パーティクルボード、MDF、ハードボード	2,409	2,264	6.4	34.1	33.3
その他	建材、住宅設備・機器、建築金物等	531	501	6.0	7.5	7.4
	合計	7,063	6,789	4.0	100.0	100.0

5．営業の経過及び成果

当期における我が国経済は、米国及び中国を中心とする外需と設備投資の増加に牽引されて回復の基調を辿りました。しかしながら、後半には原油などの素材価格の高騰や在庫調整の長期化等もあって、製造業をはじめ企業の業況判断が悪化し、景気は調整局面に入りました。

住宅建築につきましては、住宅ローン減税と低金利を背景に、全国的に分譲住宅が牽引して、平成16年度の新設住宅着工戸数は前年度比1.7%増の119万3千戸となり、2年連続の増加となりました。

このうち、木造住宅は前年度比2.4%増の54万1千戸となりましたが、2×4工法住宅は前年度比8.8%増の9万1千戸と大変好調な伸びとなり、3年連続の増加となりました。一方、マンションは前年度比2.5%増の20万7千戸となりました。

この様に、当期における我が国の住宅建築は堅調に推移しましたが、米国の新設住宅着工が歴史的な高水準で持続した結果、2×4ランバー価格は高止まりし、又、素材価格の高騰に伴う合板や木質ボード類の値上がりや海上運賃の上昇等のコストアップ要因が重なり、木材及び建材の業界は大変厳しい情勢で終始しました。

このような環境の中で、当社は新商品の開発及び新規取引先の開拓に一段と注力すると共に、仕入及び在庫の管理をきめ細かく行い、コスト管理を全社的に強化して、収益力の向上に努めました。

尚、当社は商法上小会社であり、減損会計の適用義務を負ってはいませんが、江間忠グループ共通の方針に基づいて、財務健全化を促進する見地より、当期に自主的に実施し、減損損失として209百万円を特別損失に計上致しました。

これ等の結果、当期の営業収益は72億2千8百万円（前期比4.1%増）、経常利益は2億3百万円（前期比13.2%減）、当期純損失1億1千5百万円となりました。

次に主要商品別の概況は次の通りであります。

木材

2×4工法住宅の新規着工戸数は3年連続の増加となりましたが、主力の2×4ランバーの価格高止まりが続き、苦しい営業展開となりました。

一方、集成材用木材については、国内の集成材製品への需要増加により売上は順調に推移しました。

この結果、当部門の売上は前期比1.6%減の26億5百万円となりました。

尚、子会社の江間忠ホームコンポーネント(株)の事業として進めております2×4住宅用のプレカット及びパネル生産につきましては、2年目に入った野田工場の稼働率向上が貢献し当期は順調に売上を伸ばしておりますが、前述の通り、2×4ランバー価格の高騰により、利益面では苦戦をしいられました。

合板

構造用合板及び遊技機器用の特殊合板は順調に売上を伸ばし、当部門の売上は前期比10.3%増の15億1千8百万円となりました。

繊維板

主力商品のシステムキッチンや洗面台ユニット用のメラミン化粧板及びマンション用クローゼット部材等のパーティクルボードに対する需要は引き続き堅調に推移し売上を順調に伸ばしました。利益面では、ユーロ高、素材価格の高騰等コストアップの影響で利益率低下を余儀なくされました。この結果、当部門の売上は前期比6.4%増の24億9百万円となりました。

6. 会社に対処すべき課題

木材業界をとりまく営業環境につきましては、新設住宅着工戸数が少子化による人口減少という問題を背景に、引き続き減少の傾向にあり、他方木材関係商品や運賃等のコスト高要因は容易に解消される見込みなく、今後も厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況の下で、当社は営業活動面では、先述の2×4住宅関係分野では、本社建設事業部門、昨年2月にパネルラインの増設を行った当社岸和田工場、江間忠ホームコンポーネント(株)の嵐山工場及び野田工場を含めて、相互間の連携関係をより一層強化して、2×4ランバーの共同仕入等コスト低減を図りつつ、さらに営業社員の増員により、製販増強を進めてまいります。

又、ボード事業分野では、引続き販路拡大を強力に推進すると共に、既存の事業領域での新商品開発に取り組んでまいります。

又、集成材事業分野では、国内の集成材製品需要の増加を背景に強力に販売を推進してまいります。更に、本年2月他企業より集成材工場の設備及び営業権を譲受して製造子会社江間忠ラムテック(株)を設立し、本格的に集成材製造事業に進出いたしました。JAS認定工場及びISO9001認証を継承し、江間忠グループ内のプレカット工場及び集成材原料の仕入部門との連携を強化し、営業基盤の早期確立の為、全力を傾注してまいります。

更に、新商品として開発してまいりました木製I-JOIST(商品名:ス-パ-ジョイスト)については、製造元の体制も出来あがりましたので、本格的な販売を開始してまいります。

一方、木材・建材の事業分野のみならず、企業活動のあらゆる分野で環境負荷に対する管理の重要性が益々高まっており、その取組如何が営業活動にも大きな影響をもたらす時代に入っております。

このような状況の下で、当社は環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得し維持管理をしておりますが、環境マネジメントプログラムの目標に「環境負荷の少ない商品の拡販」を追加し一層の推進を図ってまいります。

経営管理面では、引き続きローコスト経営の徹底と高収益体質の強化に全力を尽くす方針であります。これ等の課題や施策を効率よく且つ合理的に推進する為、新人事制度の定着化やITシステムの一段の充実及び経営管理体制の一層の強化を進める所存であります。

尚、創業80周年の記念活動の一環として開始した「日本木材学会」に対する研究助成等の社会貢献活動等も引き続き進めてまいります。

7. 役員の変動

当社は第46期より役員制度を刷新し、執行役員制度を導入致しておりますが、全員が1年の任期満了となります。

(1) 新任取締役（6月21日開催の定時株主総会及び取締役会で選任）

代表取締役会長 江間亮三
代表取締役社長 江間哲夫
取締役 中沢征信（新任）
取締役 藤野義男（新任）

尚、取締役室秀明は監査役に就任（6月21日開催の定時株主総会で選任）。

(2) 新任執行役員（6月21日開催の取締役会で選任）

江間哲夫（取締役兼任）
中沢征信（取締役兼常務執行役員）
藤野義男（取締役兼上席執行役員）
橋野一志（上席執行役員）
塚本大三

8. 次期営業見通し

第49期（平成18年3月期）の営業計画は次の通りであります。

項目	営業収益	営業利益	経常利益
金額（百万円）	7,893	338	339
当期増減率（％）	+9.2%	+73.3%	+67.0%

以上